

「怒りの総行動」で訴える仁木書記長（中之島集会以）



職員のいのち・健康を守るのは当局の責任だ

オミクロン株が猛威を振るっています。エッセンシャルワーカーや労働者の活動に大きな支障をもたらしています。儲け最優先から、いのちと暮らし最優先に切り替えることなしに自然災害や緊急事態を打開することはできません。

保育・介護・医療などケア労働者の賃上げだけでは解決しません。公務・公共の役割を抜本的に強化すること。2022春闘で声をあげましょう。



「いのち・暮らし守れ 大幅賃上げを！」 1・27怒りの総行動 (大阪市内)

働かせるまで 壊れるまで 働かせろのか

「こんなイラストを…」と頼むとすぐに絵に描いてくれる國乗さん。手にしているのは、こづ用に描いたイラストです。



ふれあいこそ大切にしたい

くにのり 國乗 あゆみさん

大阪自治労連保育部会長 東大阪市職労

組合との出会いは、アルバイト保育士の時。はじめは毎月の組合費がもったいないし、組合が何かもわからなかったので入っていませんでした。正規職員になった年に「組合は大事」と同期が話していて、加入しました。「今は私がんばる時かな…」と思って役員をしています」と、昨年9月の総会で保育部会長になった國乗さんにお話を聞きました。

コロナ禍で制限のある保育 それでも大切にしたいこと

感染対策で保育園生活にも多くの制限がかかり、保育内容が大きく変わりました。保育園生活の中で、子どもたち同士ふれあうことが育ちあいつながっていくのに、くつついていると「ちょっと離れよっか」と声かけしないといけないです。行事も、計画どおりにならないことが多いです。保護者とも会話そのものが減ってしまっています。子どもたちのことや保育園生活のことをもっとお話ししたいと思っています。それでも、保育園の役割や子どもたちが求めることは変

わりませんし、私も保育への思いは変わりません。どんなことも、子どもたちと一緒に楽しむことを大切にしています。うまくいかないときは、考えすぎていることが多いので、そんな時は子どもたちといっぱい遊ぶことにしています。そして、子どもから求められたときは、いっぱい受け止めるようにしています。

労働組合のこと伝えながら運動を広げたい

組合活動では、保育の情勢はもちろん、国や政治のこともなどを学んでいます。先輩方から聞いた、「組合だからこそ職場の困りごとやおかしなことを市と直接交渉できる」「交渉の結果を職場のみんなに伝えることができる」ということなどを実感しています。ただ、職場ではきちんとして休むもとれず、若い組合員や未加入の人たちに落ち着いて話せません。知ってほしいことや組合のことが伝えられない、伝わらないと役員も元氣

組合だからこそ職場で困っていることや おかしいと思うことを直接交渉できる

好きなことは 株先で出会う自然・芸術 フィンランドの凍った湖でオーロラを見たことが一番の思い出です。瀬戸内海の豊島(香川県)の豊島美術館が好きで何度も行っています。雨の日に行くのがおススメです。 コロナ禍が収まったら、海外で暮らす妹が出産したので、会いに行きたいです。



瀬戸内芸術祭で注目されている香川県直島の赤力ポチャ(草間彌生さん作)に入って…